

酪農教育ファームの活動・課題・展望についての実態調査 —関東地方の認証牧場を対象に—

音田和泉¹⁾・辻 耕治²⁾*

¹⁾千葉大学・教育学部・学部学生

²⁾千葉大学・教育学部

Activities, Issues and Prospects of Dairy Education Farms —Focusing on Certified Farms in the Kanto Region—

ONDA Izumi¹⁾ and TSUJI Koji²⁾*

¹⁾Undergraduate Student, Faculty of Education, Chiba University, Japan

²⁾Faculty of Education, Chiba University, Japan

酪農教育ファームの活動・課題・展望を明らかにするため、酪農教育ファームの認証牧場のうち関東地方の12牧場を対象にアンケート調査を行った。その結果、(1) 活動については、認証牧場は酪農教育ファームの目的である「食や仕事・いのちの学びの支援」に資する様々な活動を提供していること(2) 課題については、肉体・金銭・防疫対策面での負担が大きいと感じていること、その解決策として認証牧場と消費者をつなぐ機関の設置や金銭的な支援等が必要と考えていること(3) 展望については、地域と連携した酪農体験を伴う活動に取り組みたいという前向きな姿勢を持っていると同時に、国や企業・生産者からの支援・協力の必要性も感じていること等が明らかとなった。

In order to clarify the activities, issues and prospects of dairy education farms, a questionnaire survey was conducted on 12 certified dairy education farms in the Kanto region. The results revealed that (1) certified farms provide various activities that contribute to the purpose of dairy education farms, “supporting learning about food, work, and life,” (2) they feel that the physical, financial, and disease prevention burdens are too great, and that solutions such as the establishment of an institution that connects certified farms with consumers and financial support are necessary, and (3) they have a positive attitude toward wanting to engage in activities that involve dairy farming experiences in cooperation with the local community, but also feel the need for support and cooperation from the government, companies, and producers.

キーワード：酪農教育ファーム (Dairy education farm), 認証牧場 (Certified dairy farm), 活動 (Activity), 課題 (Issue), 展望 (Prospect)

1. 緒 論

食育の重要性への認識が高まる流れの中で、食育に関連する法律や計画が政府により制定・策定されてきた。主要なものとして、平成17年に食育基本法が制定され(農林水産省, 2005)、翌平成18年には、食育基本法の第16条第1項に基づき食育推進基本計画が策定された(文部科学省, 2006)。注目すべきは、この食育推進基本計画の中に「教育ファーム」という用語が登場していることである。ここで「教育ファーム」という用語が用いられたのは画期的なことであり、国の施策の一環として、こうした用語が用いられたことはこれまでになかった(羽豆, 2008)。教育ファームとは一時的なイベントではなく、生産者の指導を受けながら、大人も子どもも一連の農作業などを体験することで、「食生活が自然の恩恵の上に成り立っていることや食に関する人々の様々な活動に支えられていること等に関する理解を深める」などの効果

が発揮される農林漁業体験活動である(農林水産省, 2004)。教育ファームの対象には、米、野菜、果実、畜産物、魚介類、きのこ等が挙げられる(近畿農政局, 2024)。これら教育ファームの対象のうち、酪農に特化したのが酪農教育ファームである。酪農教育ファームとは、「酪農を通して食や仕事、いのちの学びを支援すること」を目的に、「認証」を受けた酪農家などが、牧場や学校などで主に学校や教育現場と連携して行う、酪農に係る作業体験などを通じた教育活動である(農畜産業振興機構, 2019)。

今後、酪農教育ファームの発展・充実を図る上で、その実態についてのデータは不可欠であるが、酪農教育ファームの認証牧場への聞き取りに基づく実態調査は少ない。酪農教育ファームについての事例研究として大江(2004)はあるものの、この研究で対象とした牧場は3箇所と少なく、また発表されてから20年が経過している。すなわち、現在の酪農教育ファームでどのような活動が行われているのか、酪農教育ファームの課題と展望について認証牧場の方々は何を考え、何を感じているのか、

*連絡先著者：辻 耕治 tsujikoji684@chiba-u.jp

これらの点についての調査研究が不足している。そこで本研究は、現在の酪農教育ファームの活動・課題・展望について、酪農教育ファームの認証牧場を対象としたアンケート調査に基づき明らかにすることを目的として実施することとした。

2. アンケートの対象・内容

アンケートは、2022年7月に酪農教育ファームの認証牧場のうち関東地方の24牧場を対象に実施した。本報では、このうち回答を得られた12牧場のデータを分析対象とした。また、アンケートの様式は選択肢と記述式とした。

選択式では、酪農教育ファームにおける活動・課題・展望の概要を捉えることを目的に、6つの質問を設定した(表1)。すなわち、活動に関して「Q1 酪農教育ファームに関する活動に積極的に取り組んでいる」「Q2 酪農教育ファームに関する活動は参加者にとって有意義と感ずる」「Q3 酪農教育ファームに関する活動は牧場にとっても有意義と感ずる」の3つ、課題に関して「Q4 酪農教育ファームに関する活動は牧場にとって負担が大きいと感ずる」「Q5 酪農教育ファーム制度には改善の余地がある」の2つ、展望に関して「Q6 酪農教育ファーム制度は今後継続すべきである」の1つを設定した。各質問の選択肢は、1：当てはまらない、2：やや当てはまらない、3：やや当てはまる、4：当てはまるの4つとした。

記述式は、酪農教育ファームにおける活動・課題・展望の詳細を捉えることを目的に、7つの質問を設定した(表2)。すなわち、活動に関して「Q7 酪農を通して食の学びを支援するために、どのような活動を行っているか」「Q8 酪農を通して仕事の学びを支援するために、

どのような活動を行っているか」「Q9 酪農を通していのちの学びを支援するために、どのような活動を行っているか」の3つ、課題に関して「Q10 酪農教育ファームの課題と感ずるもの」「Q11 課題を解決するためのアイデア」の2つ、展望に関して「Q12 今後どのような活動に取り組みたいか」「Q13 酪農教育ファームの発展に向けてどのような要望があるか」の2つを設定した。記述式の回答については、テキストマイニング用ソフトウェアKH Coderを使用して分析し、出現頻度が上位5位の語句に着目して考察を行うこととした。

3. 結果

3-1. 選択式について (Q1~Q6)

結果は表3のとおりである。

「Q1 酪農教育ファームに関する活動に積極的に取り組んでいる」については、「1：当てはまらない」が0人(0%)、「2：やや当てはまらない」が4人(33.3%)、「3：やや当てはまる」が4人(33.3%)、「4：当てはまる」が4人(33.3%)となった。すなわち、酪農教育ファーム活動に積極的に取り組んでいる認証ファームが約66%を占めた。

「Q2 酪農教育ファームに関する活動は参加者にとって有意義と感ずる」については、「1：当てはまらない」、「2：やや当てはまらない」共に0人(0%)、「3：やや当てはまる」が1人(8%)、「4：当てはまる」が11人(91%)となった。すなわち、全ての認証ファームが「3：やや当てはまる」または「4：当てはまる」と回答しており、酪農教育ファーム活動は参加者にとって有意義であると、認証ファーム側は感ずっていると読み取れる。

「Q3 酪農教育ファームに関する活動は牧場にとって

表1. アンケート(選択式)の質問項目

番号	カテゴリ	質問項目
Q1	活動	・酪農教育ファームに関する活動に <u>積極的に取り組んでいる</u>
Q2		・酪農教育ファームに関する活動は <u>参加者にとって有意義と感ずる</u>
Q3		・酪農教育ファームに関する活動は <u>牧場にとっても有意義と感ずる</u>
Q4	課題	・酪農教育ファームに関する活動は牧場にとって <u>負担が大きいと感ずる</u>
Q5		・酪農教育ファーム制度には <u>改善の余地がある</u>
Q6	展望	・酪農教育ファーム制度は <u>今後も継続すべきである</u>

各問の選択肢は下記の4つ。

1：当てはまらない、2：やや当てはまらない、3：やや当てはまる、4：当てはまる

表2. アンケート(記述式)の質問項目

番号	カテゴリ	質問項目
Q7	活動	・酪農を通して <u>食の学び</u> を支援するために、どのような活動を行っていますか?
Q8		・酪農を通して <u>仕事の学び</u> を支援するために、どのような活動を行っていますか?
Q9		・酪農を通して <u>いのちの学び</u> を支援するために、どのような活動を行っていますか?
Q10	課題	・酪農教育ファームの課題と感ずるものがあれば、挙げてください。
Q11		・その課題を解決するためのアイデアがあれば、挙げてください。
Q12	展望	・今後、取り組みたい活動があれば、挙げてください。
Q13		・今後、酪農教育ファームの発展に向け、要望があれば、挙げてください。

表3. アンケート（選択式）の結果

	1 当てはまらない	2 やや当てはまらない	3 やや当てはまる	4 当てはまる
Q1	0 (0%)	4 (33%)	4 (33%)	4 (33%)
Q2	0 (0%)	0 (0%)	1 (8%)	11 (91%)
Q3	0 (0%)	0 (0%)	4 (33%)	8 (66%)
Q4	0 (0%)	4 (33%)	7 (58%)	1 (8%)
Q5	1 (8%)	4 (33%)	5 (41%)	2 (16%)
Q6	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	12 (100%)

も有意義であると感じる」については、「1：当てはまらない」、「2：やや当てはまらない」共に0人(0%)、「3：やや当てはまる」が4人(33%)、「4：当てはまる」が8人(66%)となった。すなわち、全ての認証ファームが「3：やや当てはまる」または「4：当てはまる」と回答しており、酪農教育ファーム活動は認証ファーム側にとっても有意義と感じていると読み取れる。

「Q4 酪農教育ファームに関する活動は牧場にとって負担が大きいと感じる」については、「1：当てはまらない」が0人(0%)、「2：やや当てはまらない」が4人(33%)、「3：やや当てはまる」が7人(58%)、「4：当てはまる」が1人(8%)となった。すなわち、酪農教育ファーム活動を負担が大きいと感じている認証ファームが約66%を占めた。

「Q5 酪農教育ファーム制度には改善の余地がある」については、「1：当てはまらない」が1人(8%)、「2：やや当てはまらない」が4人(33%)、「3：やや当てはまる」が5人(41%)、「4：当てはまる」が2人(16%)となった。すなわち、酪農教育ファーム制度は改善の余地があると考える認証ファームが過半数(57%)を占めた。

「Q6 酪農教育ファーム制度は今後も継続すべきである」については、「1：当てはまらない」、「2：やや当てはまらない」、「3：やや当てはまる」が0人(0%)、「4：

当てはまる」が12人(100%)となった。すなわち、全ての認証ファームが今後も酪農教育ファーム制度を継続すべきと考えていると読み取れる。

3-2. 記述式

3-2-1. 酪農教育ファームの活動について (Q7~Q9)

「Q7 酪農を通して食の学びを支援するために、どのような活動を行っているか」について、出現頻度が上位5位の語句は「食(9回)」「生産(6回)」「体験(6回)」「人(4回)」「説明(4回)」「伝える(4回)」「酪農(4回)」であった(表4)。「Q8 酪農を通して仕事の学びを支援するために、どのような活動を行っているか」について、出現頻度が上位5位の語句は「酪農(7回)」「仕事(6回)」「受け入れ(3回)」「説明(3回)」「体験(3回)」「畜産(3回)」「牧場(3回)」であった(表5)。「Q9 酪農を通していのちの学びを支援するために、どのような活動を行っているか」について、出現頻度が上位5位の語句は「命(12回)」「感じる(6回)」「牛(5回)」「生き物(5回)」「人(4回)」「動物(4回)」であった(表6)。

表4. アンケート（選択式）のQ7*について出現頻度上位5位の語句と回答例

語句（出現回数）	回答例
食（9回）	・酪農体験を通して消費者に食と命の繋がりを伝える ・食の体験 ・バターやアイスクリーム作り体験を通じて食育を行う
生産（6回）	・生乳の生産の仕組みやプロセスを学ぶ ・生産者である酪農家の思いや工夫を学ぶ ・生乳等の生産の仕組みやプロセスの説明
体験（6回）	・乳搾り体験 ・搾乳体験 ・哺乳体験
人（4回）	・食品が作られる工程を知り、関わる人や命への感謝の気持ちを育てる
説明（4回）	・牛が生乳を生産するようになるまでの過程の話を口頭で説明する
伝える（4回）	・生産者である酪農家の思いを伝える
酪農（4回）	・酪農家の思いや工夫を説明する

*Q7 酪農を通して食の学びを支援するために、どのような活動を行っていますか？

表5. アンケート（選択式）のQ8*について出現頻度上位5位の語句と回答例

語句（出現回数）	回答例
酪農（7回）	<ul style="list-style-type: none"> ・酪農を通して関連する職業など仕事の広がり伝える ・酪農の仕事，酪農に関する仕事のことを伝える ・将来なんらかの形で酪農，畜産関連の職業を志す人員を育成する
仕事（6回）	<ul style="list-style-type: none"> ・酪農家の仕事の説明をする。
受け入れ（3回）	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生を受け入れる ・地域の小学校，中学校，農業高校などの職場体験を受け入れる ・畜産大学生の実習受け入れる
説明（3回）	<ul style="list-style-type: none"> ・乳製品の流通の仕組みの説明をする ・口頭で牧場には多くのスタッフがいることや酪農牧場に就職するという選択肢があるということを説明する
体験（3回）	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験 ・キッズファームの実施。飼育体験をする
畜産（3回）	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産の仕事に興味を持ってもらう
牧場（3回）	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの出身地や，なぜ酪農牧場に就職することにしたかの ・話をする

※Q8 酪農を通してしごとの学びを支援するために，どのような活動を行っていますか？

表6. アンケート（選択式）のQ9*について出現頻度上位5位の語句と回答例

語句（出現回数）	回答例
命（12回）	<ul style="list-style-type: none"> ・命のあたたかさに実際に触れ，感じ，食が命であることを体験してもらう ・触れ合いを通し，命の温かさを感じてもらう
感じる（6回）	<ul style="list-style-type: none"> ・牧場にいる生き物に触れ，命を身近に感じる ・聴診器を使い，牛を身近に感じる
牛（5回）	<ul style="list-style-type: none"> ・牛とのふれあいをする ・牛のブラッシングをする
生き物（5回）	<ul style="list-style-type: none"> ・人と他の生き物の関係性や生き物は命を育てていることの理解を深め，命を尊重する態度を養う ・人と他の生き物の関係性や命について理解してもらう
人（4回）	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜の仕事を知ってもらい，人と動物との繋がりを考えるキッカケを作る ・人と家畜が共存するあり方や牧場の周りの環境を学ぶ
動物（4回）	<ul style="list-style-type: none"> ・産業動物を飼養するということは，どういうことなのかを感じる ・動物を扱う職業であることへの使命を理解する

※Q9 酪農を通しての学びを支援するために，どのような活動を行っていますか？

3-2-2. 酪農教育ファームの課題について（Q10～Q11）

「Q10 酪農教育ファームの課題と感ずるもの」について，出現頻度が上位5位の語句は「酪農（15回）」「活動（9回）」「ファーム（8回）」「教育（8回）」「管理（5回）」であった（表7）。「Q11 課題を解決するためのアイデア」について，出現頻度が上位5位の語句は「活動（4回）」「教育（4回）」「酪農（4回）」「体験（4回）」「学校（3回）」「機関（3回）」「牧場（3回）」であった（表8）。

3-2-3. 酪農教育ファームの展望について（Q12～Q13）

「Q12 今後どのような活動に取り組みたいか」につ

いて，出現頻度が上位5位の語句は「酪農（5回）」「活動（4回）」「体験（4回）」「地域（4回）」「知る（3回）」であった（表9）。「Q13 酪農教育ファームの発展に向けてどのような要望があるか」について，出現頻度が上位5位の語句は「酪農（5回）」「ミルク（2回）」「補助（2回）」「思う（2回）」「関係（2回）」「生産（2回）」「必要（2回）」「考える（2回）」「人（2回）」「企業（2回）」「学校（2回）」「国（2回）」「支援（2回）」「活動（2回）」「牧場（2回）」であった（表10）。

4. 考 察

4-1. 酪農教育ファームの活動について

選択式（Q1～6）（表3）の結果から，酪農教育ファーム

表7. アンケート（選択式）のQ10*について出現頻度上位5位の語句と回答例

語句（出現回数）	回答例
酪農（15回）	・人材、労働力不足。酪農家への理解醸成 ・取り組みに対する時間的、肉体的負担 ・取り組みたい消費者と酪農家側との接点
活動（9回）	・ボランティアでの活動
ファーム（8回）	・教育ファームと防疫の両立
教育（8回）	・酪農教育ファーム活動は本業である酪農業経営が安定していなければ継続した活動が難しいと感じます
管理（5回）	・飼養衛生管理基準の順守する項目が増えたため、酪農教育ファーム活動と家畜防疫面の折り合いをどのように付けたらよいか悩んでいる ・牧場に不特定多数が出入りする事による家畜伝染病の懸念 ・安全管理の徹底が大変

※Q10 酪農教育ファームの課題と感じるものがあれば、挙げてください。

表8. アンケート（選択式）のQ11*について出現頻度上位5位の語句と回答例

語句（出現回数）	回答例
活動（4回）	・学校等の教育機関と牧場をつなぐプラットフォームのようなものがあり、学校との手続きの簡略化ができたり、やり取りをサポートしてくれる組織があると良い
教育（4回） 酪農（4回）	・酪農教育ファーム活動が実施する牧場のボランティア活動ではなく、酪農家が子供たちや地域社会へ与えられる価値として認識され、しっかりと対価を得られる仕組みとする。
体験（4回）	・体験受入時のスタッフ雇用費の補填。
学校（3回）	・自治体などの協力を経て認証を行う（学校出張等の活動も含め）
機関（3回） 牧場（3回）	・教育機関や消費者と牧場をつなぐつなぎ役を担ってくれる機関の設置や育成

※Q11 その課題を解決するためのアイデアがあれば、挙げてください

表9. アンケート（選択式）のQ12*について出現頻度上位5位の語句と回答例

語句（出現回数）	回答例
酪農（5回）	・日常的な酪農体験の受け入れ
活動（4回）	・地域の酪農家との教育ファーム活動の実施
体験（4回）	・地域の学校への出前授業や体験の受け入れ
地域（4回）	・地域で牛をもっと身近に感じてもらえるような催し ・地域との連携
知る（3回）	・夏休み等の機会をつかい、酪農の仕事を知るキャンプや3daysセミナーみたいなのが開催できたら楽しいなと思います

※Q12 今後、どのような活動に取り組みたいと考えていますか

ムの認証牧場は、(1)酪農教育ファームの活動に積極的に取り組んでいること(2)酪農教育ファームは参加者と認証牧場の両者にとって有意義と考えていることが読み取れる。では具体的にどのような取り組みが積極的に行われ、酪農教育ファームの目的である「酪農を通して食や仕事・いのちの学びの支援」(農畜産業振興機構, 2019)が行われているのか、記述式(Q7~9)の結果(表4~6)から考察する。

Q7は、酪農教育ファームの目的のうち「食の学びの支援」に焦点をあてた質問である。出現頻度上位の語句のうち「食」「体験」を含む回答例は、「酪農体験を通し

て、消費者に食と命の繋がりを伝える」「食の体験」「バターやアイスクリーム作り体験を通じて食育を行う」「乳搾り体験」「搾乳体験」「哺乳体験」であった(表4)。また、出現頻度上位の語句のうち「生産」「人」「説明」「伝える」「酪農」を含む回答例は、「生乳の生産の仕組みやプロセスを学ぶ」「生産者である酪農家の思いや工夫を学ぶ」「生乳等の生産の仕組みやプロセスの説明」「食品が作られる工程を知り、関わる人や命への感謝の気持ちを育てる」「牛が牛乳を生産するようになるまでの過程の話を口頭で説明する」「生産者である酪農家の思いを伝える」「酪農家の思いや工夫を説明する」であった(表

表10. アンケート（選択式）のQ13^{*}について頻出語上位5個と回答例

語句（出現回数）	回答例
酪農（5回）	・酪農を継続していく事が困難な状況です。各企業の頑張りではどうにもいかない事も多い中、国がどう支援対策していくかも大きな課題だと考えています
ミルク（2回） 補助（2回） 思う（2回）	・参加者が酪農と食の繋がりをより実感できるよう、加工施設建設の補助や自社ミルク作成補助のようなものができたら良いと思う
関係（2回） 生産（2回） 必要（2回） 考える（2回） 人（2回）	・生産者だけでなく利害関係を共にする関係機関、飼料、資材、獣医、酪農に関わる人が一緒に取り組む必要性が増している。酪農とその周りの産業を守るためにも生産者側はもう少し広くくりで時間と人手、資金を注入していくべきではないかと考える。内部への理解醸成も必要
企業（2回） 学校（2回）	・企業や学校などとのタイアップ
国（2回） 支援（2回）	・国からの支援
活動（2回） 牧場（2回）	・酪農教育ファーム活動を行っても、その牧場だけで搾ったミルクや乳製品を使っただけの活動ができていない牧場はほとんどない

※Q13 酪農教育ファームの発展に向け、要望があれば挙げてください

4)。これらの結果から、認証農場は、酪農の体験活動、食品の生産過程や酪農家の思いについての説明等を通して「食の学びの支援」を行っているとして解釈できる。

Q8は、酪農教育ファームの目的のうち「仕事の学びの支援」に焦点をあてた質問である。出現頻度上位の語句のうち「受け入れ」「体験」を含む回答例は、「研修生を受け入れる」「地域の小学校、中学校、農業高校などの職場体験の受け入れをする」「畜産大学生の実習を受け入れる」「職場体験」「キッズファームの実施。飼育体験をする」であった（表5）。また、出現頻度上位の語句のうち「酪農」「仕事」「説明」「畜産」「牧場」を含む回答例は、「酪農を通して関連する職業など仕事の広がり伝える」「酪農の仕事、酪農に関する仕事のことを伝える」「将来なんらかの形で酪農、畜産関連の職業を志す人員を育成する」「酪農家の仕事の説明をする」「畜産の仕事に興味を持ってもらう」「乳製品の流通の仕組みの説明をする」「口頭で牧場には多くのスタッフがいることや酪農牧場に就職するという選択肢があるということの説明する」「スタッフの出身地や、なぜ酪農牧場に就職することにしたかの話をする」であった（表5）。これらの結果から、認証農場は、児童や学生といった若い世代に向けた酪農の仕事体験、酪農の仕事に関する説明等を通して「仕事の学びの支援」を行っているとして解釈できる。

Q9は、酪農教育ファームの目的のうち「いのちの学びの支援」に焦点をあてた質問である。出現頻度上位の語句のうち「命」「感じる」「牛」を含む回答例は、「命のあたたかさに実際に触れ、感じ、食が命であることを体験してもらう」「触れ合いを通し、命の温かさを感じてもらう」「牧場にいる生き物に触れ、命を身近に感じる」「聴診器を使い、牛を身近に感じる」「牛とのふれあいをする」「牛のブラッシングをする」であった（表6）。

また、出現頻度上位の語句のうち「生き物」「人」「動物」を含む回答例は、「人と他の生き物の関係性や生き物は命を育てていることの理解を深め、命を尊重する態度を養う」「人と他の生き物の関係性や命について理解してもらおう」「家畜の仕事を知ってもらい、人と動物との繋がりを考えるキッカケを作る」「人と家畜が共存するあり方や牧場の周りの環境を学ぶ」「産業動物を飼養するということは、どういうことなのかを感じる」「動物を扱う職業であることへの使命を理解する」であった（表6）。これらの結果から、認証農場は、牧場にいる牛や他の生き物との触れ合いや命について考えさせる説明等を通して、「いのちの学びの支援」を行っているとして解釈できる。

以上のとおり、現状の認証農場は、酪農教育ファームの目的である「酪農を通して食や仕事・いのちの学びの支援」に資する活動を提供していると解釈できる。

4-2. 酪農教育ファームの課題について

選択式（Q4～5）の結果から、認証農場の多くは、(1)酪農教育ファームが牧場の負担となっている(2)酪農教育ファームは改善の余地があると考えていることが読み取れる。では具体的にどのような点が負担で、どのような点が改善の余地があると考えているのか、記述式（Q10～11）の結果（表7～8）から考察する。

Q10は、具体的な課題に焦点をあてた質問である。出現頻度上位の語句のうち「酪農」「活動」「教育」を含む回答例は、「人材、労働力不足。酪農家への理解醸成」「取り組みに対する時間的、肉体的負担」「取り組みたい消費者と酪農家側との接点」「ボランティアでの活動」「酪農教育ファーム活動は本業である酪農業経営が安定していなければ継続した活動が難しいと感じます」であった（表7）。また、出現頻度上位の語句のうち「ファーム」

「管理」を含む回答例は、「教育ファームと防疫の両立」「牧場に不特定多数が出入りする事による家畜伝染病の懸念」「安全管理の徹底が大変」「飼養衛生管理基準の順守する項目が増えたため、酪農教育ファーム活動と家畜防疫面の折り合いをどのように付けたらよいか悩んでいる」であった(表7)。これらの結果から、認証牧場は酪農教育ファームの課題として、酪農家の肉体面、金銭面および防疫対策面の負担が大きいと感じていると解釈できる。

Q11は、課題の解決策に焦点をあてた質問である。上位5つの頻出語のうち「活動」「学校」「機関」「牧場」を含む回答例は、「学校等の教育機関と牧場をつなぐプラットフォームのようなものがあり、学校との手続きの簡略化ができたり、やり取りをサポートしてくれる組織があると良い」「自治体などの協力を経て認証を行う」「教育機関や消費者と牧場をつなぐつなぎ役を担ってくれる機関の設置や育成」であった(表8)。また、上位5つの頻出語のうち「教育」「酪農」「体験」を含む回答例は、「酪農教育ファーム活動が実施する牧場のボランティア活動ではなく、酪農家が子供たちや地域社会へ与えられる価値として認識され、しっかりと対価を得られる仕組みとする」「体験受入時のスタッフ雇用費の補填」であった(表8)。これらの結果から、認証牧場は課題解決策として、牧場と消費者をつなぐ機関の設置や金銭的な支援が必要と考えていると解釈できる。

以上のとおり、現状の認証牧場は、酪農教育ファームの課題は酪農家の肉体面、金銭面および防疫対策面の負担が大きいことである、その解決策として、牧場と消費者をつなぐ機関の設置や金銭的な支援が必要と考えていると解釈できる。

4-3. 酪農教育ファームの展望について

選択式(Q6)の結果から、今回調査対象とした全ての認定牧場が、酪農教育ファーム制度を今後も継続すべきと考えていることが読み取れる。では認定牧場は今後の酪農教育ファームでどのような活動に取り組みたいと考えているか、どのような要望を持っているか、記述式(Q12~13)の結果(表9~10)から考察する。

Q12は、今後取り組みたい活動に焦点をあてた質問である。出現頻度上位の語句のうち「酪農」「活動」「体験」「地域」「知る」を含む回答例は、「日常的な酪農体験の受け入れ」「地域の酪農家との教育ファーム活動の実施」「地域の学校への出前授業や体験の受け入れ」「地域で牛をもっと身近に感じてもらえるような催し」「地域との連携」「夏休み等の機会をつかい、酪農の仕事を知るキャンプや3daysセミナーみたいなのが開催できたら楽しいなと思います」であった(表9)。これらの結果から、認証牧場は地域と連携して酪農体験を伴う活動に取り組みたいと考えていると解釈できる。

Q13は、酪農教育ファームを発展させるための要望に焦点をあてた質問である。出現頻度上位の語句を含む回答例は、「酪農を継続していく事が困難な状況です。各

企業の頑張りではどうにもいかない事も多い中、国がどう支援対策していくかも大きな課題だと考えています」「参加者が酪農と食の繋がりをより実感できるよう、加工施設建設の補助や自社ミルク作成補助のようなものができたら良いと思う」「生産者だけでなく利害関係を共にする関係機関、飼料、資材、獣医、酪農に関わる人が一緒に取り組む必要性が増している。酪農とその周りの産業を守るためにも生産者側はもう少し広くくりで時間と人手、資金を注入していくべきではないかと考える。内部への理解醸成も必要」「企業や学校などのタイアップ」「国からの支援」「酪農教育ファーム活動を行っても、その牧場だけで搾ったミルクや乳製品を使っている活動ができていないのはほとんどない。」であった(表10)。これらの結果から、認証牧場は、国や酪農に携わる企業・生産者等からの支援・協力を要望していると解釈できる。

以上のとおり、今後の展望について、現状の認証牧場は、地域と連携した酪農体験を伴う活動に取り組みたいという前向きな姿勢を持っていると同時に、国や企業・生産者などからの支援・協力の必要性も感じていると解釈できる。

5. 謝 辞

アンケートにご協力いただきました酪農教育ファーム認証牧場の皆様に感謝申し上げます。

6. 引用文献

- 羽豆成二(2008)我が国における「酪農教育ファーム」の成立とその教育的意義(その2). 帝京短期大学紀要, 15, 31-42.
- 近畿農政局(2024)農林漁業体験(教育ファーム). <https://www.maff.go.jp/kinki/syouhi/seikatu/syokuiku/famu.html>, (最終閲覧日:2024年10月15日)
- 文部科学省(2006)「食育推進基本計画」の決定について(通知). https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/06060522.htm, (最終閲覧日:2024年10月15日)
- 農畜産業振興機構(2024)酪農教育ファーム活動20年のあゆみ~これまでの取り組みと今後の可能性について~. https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_000664.html, (最終閲覧日:2024年10月15日)
- 農林水産省(2004)基礎から始める教育ファーム運営の手引き. <https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/taikenn/pdf/all.pdf>, (最終閲覧日:2024年10月15日).
- 農林水産省(2005)食育基本法. <https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/attach/pdf/kannrenhou-20.pdf>, (最終閲覧日:2024年10月15日).
- 大江靖雄(2004)農業の教育機能の発揮とその課題—酪農教育ファームを事例として—. 千葉大園学報, 58, 17-27.